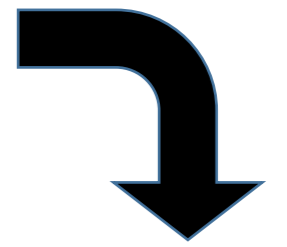


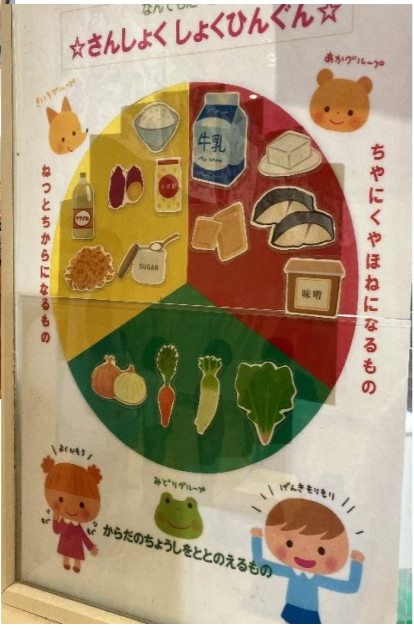
・違ういもはどうだろう？  
・サツマイモ掘りたい

・どうやってそだつ？・なにをしようか？

・おみずあげよう！  
・とうぼんつくろう！



# じゃがいも

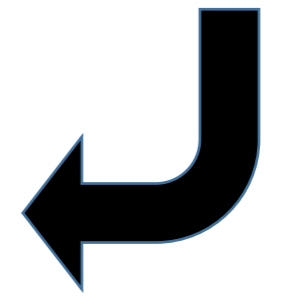


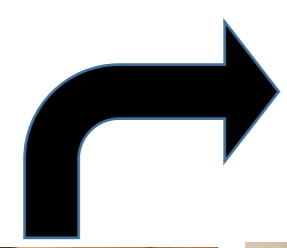
・振り返りについてのコメント。  
収穫したことでじゃがいもの成り立ちや興味が広がっていた。収穫したじゃがいもは残しておいてほかのいもとの違い食べ比べとして使用できた。  
給食にいもが入っていると「これは何いもだろう？」と給食室に貼ってある三色群のイラストを見ながら確認するようになってきた。

・記録についてのコメント。  
子ども達の栽培活動にもつながった。毎日芽が出てきたか確認するようになってきた。  
当番表を作ったことで、毎朝確認しながらそれぞれが責任をもって水やりを行う姿が見られた。  
成長を楽しみにしている様子がうかがえた。活動に水やりが加わったことによりさらに小さな変化や葉っぱが出てきたよなど興味をもって保育者へ伝える姿があった。



・環境についてのコメント。  
土の袋・袋腐葉土と芽出しのじゃがいもを準備し、クラスごとに植え付けを行った。袋の下の方に穴を開けるのはきりを使ったため保育者が行った。その後、子どもたちが水やりできるように配慮した。

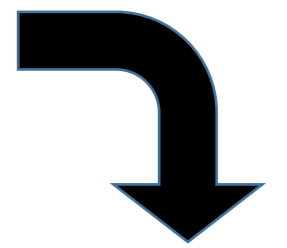




・つかまえられたよ  
 ・ずっともっているとぬるくなる

・つめたい、あつい？  
 ・水を触るとどうなる？

・みずあそびしたい  
 ・みずあびしたい



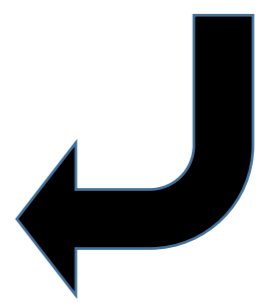
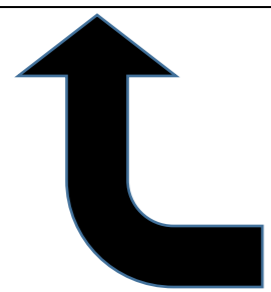
水

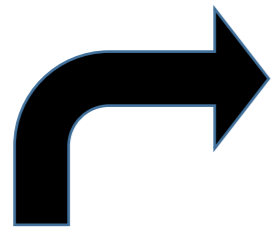


・振り返りに関するコメント。  
 水を感じたことで水の性質を知ることにもつながり、色水遊びや氷と塩を使用して釣りをしたりと、氷への興味にもつながった。

・記録についてのコメント。  
 夏の暑い時期を水遊びを通して快適に過ごすことができた。子どもたちも水の感触に触れ、冷たい・ぬるいなど温度の変化なども体験できていた。気持ちいいなどの声もあり体験を通していろいろな感覚を味わい、言葉に出して表現していた。安全に遊ぶための約束を遊び始める前と都度確認していたことで、子どもたち同士で「歩くよ」「顔にはかけないよ」と伝え合う姿が見られるようになった。

・環境についてのコメント。  
 水遊びができる環境を用意するためにシートやカーテンレールを使用して水遊びできる空間を作った。水風船や水鉄砲、スプレーなどを用意し色々な遊び方が出来るようにした。

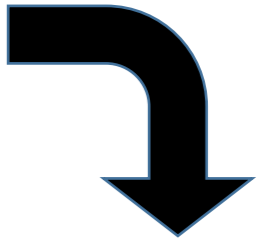




・このおいもなににつ  
かおう  
・ほかのおいもはどう  
なっているんだろう？

・じゃがいもとの違いは？・畑のいもは  
どうなってる？

・色が違う  
・ワクワクする  
・どうやってほるの  
かな？



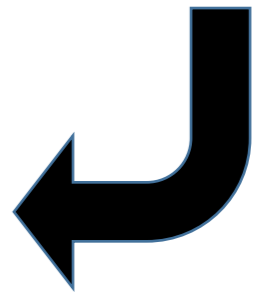
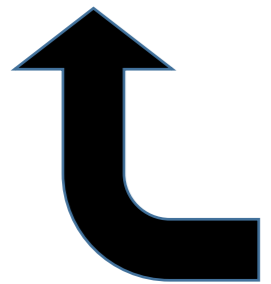
## サツマイモほり

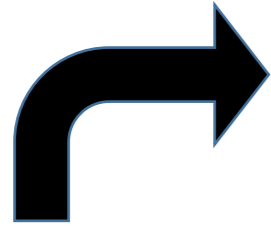


・振り返りについてのコメント。  
思い出画を描いたり、小さいさつまいもを使  
って絵を描いたり、スタンプをしたり、芋自  
体に色を塗ったり、廃材を使って芋を作っ  
たりとそれぞれに感じたことを表現すること  
を楽しむ姿が見られた。

・記録についてのコメント。  
友達と一緒に収穫を楽しみながら、じゃがいもとの違いや自分たちが育てた  
ものと畑の違いを感じたりする姿が見られた。  
収穫したさつまいもは年下のクラスの子にもお土産として配る等、子どもた  
ちからの提案で異年齢の関わりの機会も作ることが出来た。収穫を通して食  
材への興味が深まっており、給食の時に「これは何いもかな？」と給食の先  
生に確認する姿も増えている。

・環境についてのコメント。  
実際に畑に行き、手で土を掘ってから  
蔓を掴んで引っ張り、感触を楽しみ  
ながら収穫が出来るようにした。

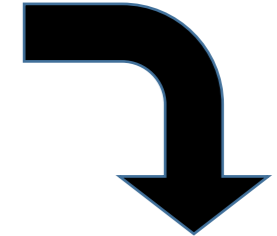




・あじがちがった  
・かたさもちがう

・違いはなんだろう？・気  
になる？

・おおきさがちがう  
・いろとかたちもち  
がう



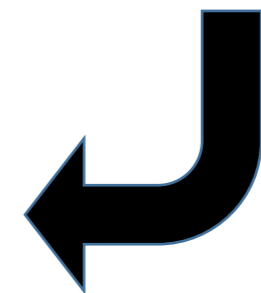
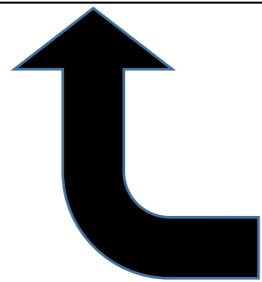
### サツマイモとじゃがいも

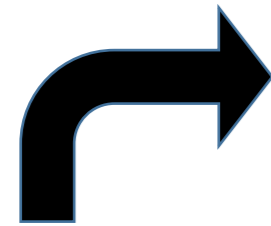


・振り返りについてのコメント。  
さつまいもを甘く感じる子、ポテトチップの方が好みの子、自分で育てたから、遠足で収穫したから、とそれぞれに気付いたことや思いを共有していた。  
塩をかけると味が変わることを実際に体験できた。  
保育者が「さつまいもはどんな味？じゃがいもと同じ？」、「噛むといい音が聞こえるね」と声を掛けるとよりじっくり味わいながら食べる様子が見られた。  
また、保護者にいもの違いを調べて発表したいという声もあがったため発表会に繋げていく。

・記録についてのコメント。  
もともと食材への興味強い子が多かったが、素材そのものの味比べをすることでさつまいもとじゃがいもの味の違いや触感の違いに気付く姿が見られた。  
他のいもも気になり始めており、筑前煮の日は「じゃがいもかな？」「でもちょっと違う気がする」「さつまいもはもっと甘かった」と友達と話す様子が見られ、三色群の表をみて「さといもだ！」と気づいていた。「ほかにはなにいもがあるのかな？」という声も上がっており、本棚にある野菜の図鑑を使って調べる姿も見られた。

・環境についてのコメント。  
自分たちで育てて収穫したじゃがいもと、畑で収穫したさつまいもの両方をとっておいた。  
食べ比べができるようにポテトチップとさつまいもチップにした。さらに味覚の対比効果を感じられるように塩も用意した。

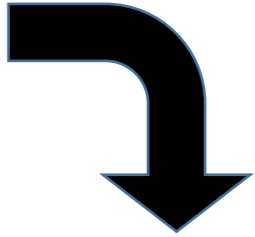




- ・ いい匂いがする
- ・ 柔らかいのもあった
- ・ 白いいちごもある
- ・ 土にできるのは野菜で木は果物なんだった

くだものの育ちといもの違いは？ ・ どうやってとる？

- ・ くだものも土の中で育つのかな？
- ・ 木になるものもあるよね



## くだもの狩り体験

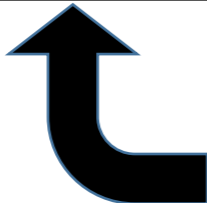


・ 振り返りについてのコメント。

いちご狩りの際、農園の方から教わった「粒が赤いもの」「ヘタが上を向いているもの」がおいしいという見分け方を、後日図鑑と照らし合わせながら友達や保育者に意気揚々と話す姿が見られた。

図鑑を深掘りする中で土にできるものは「野菜」であり、いちごやスイカ、メロンも実は同じ仲間であることを再確認した。これまでのイモ栽培（土の中）の経験から「土＝野菜」という実感が強いため、別のページにある「木になるみかんやオレンジ（果物）」との違いにも、自分たちで納得しながら気づくことができていた。

さらに、いちごと同じベリー系のページを見つけると「クランベリーやブルーベリーはどっちの仲間だろう？」と新たな疑問が生まれ、自分たちで調べようとする探究心に繋がっている。現地での実体験が、園での主体的な学びにしっかりと結びついている。



・ 記録についてのコメント。

いちごの匂いや色、形に強い興味を示していた。土の中で育つイモ類との違いを視覚的に捉えながら、収穫を楽しんでいた。自分で収穫したという達成感が苦手意識を上回り、普段は食べられない子が「おいしい」と口にする姿も見られた。後日、家庭でも話題に上がるなど、自ら体験することの大切さが改めて実感できる活動となった。

・ 環境についてのコメント。

くだもの狩り業者を手配し、保育者、園児、保護者と一緒に体験できるようにした。

いちごの獲り方、どんなふうないちごが美味しいか、土になるものと木になるものの違い等の説明を聞けるようにした。

